

# らしんばん

〒466-0059

名古屋市昭和区福江3丁目5番10号

自立援助ホーム慈泉寮内

就労支援事業 サポートいずみ

TEL (052) 881-7583

FAX (052) 881-7746

E-mail:[supportizumi@syoutokukai.or.jp](mailto:supportizumi@syoutokukai.or.jp)

<https://syoutokukai.or.jp/izumi/>



いずみ 巣立ち通信24

2025年度 第3号

発行責任者 濱田 光男

編集責任者 村本 寛明

## 大学生活とブラックバイト

ブラックバイトとは過酷な労働環境の中で働くアルバイトの俗称です

私は施設を巣立って一人暮らしの大学1年生です。のんびりと大学生活ができると思っていたのですが、授業は厳しく出席を求められ、思ったほどののんびりではありません。

給付型の奨学金と社会福祉協議会のサポート事業から金銭的な支援を受けています。でも、家賃5万円、食費、スマホ経費、授業の教材費等で多くの支出があります。

そのため入学当時からコンビニでアルバイトをしています。週3日で1日4時間なら授業の負担にならないし生活も楽になると考えていましたが、バイト先の店長が「バイトが数人辞めたから人手が足りない」「今月は繁忙期で忙しいから」などと私の希望をまったく聞かないで勝手にたくさんのシフトを入れてきました。そのおかげで授業に出られなくなりサークルも参加できません。先日、店長に「大学の授業に出られないのでバイトを辞めます」と言ったら「そんなことで辞められては店が困る。辞めるならバイトを探してから辞めろ」と言われました。



理不尽だと思ったので、友人にもいろいろ聞いてみました。

飲食店でアルバイトしている友人は「すごく人気のあるラーメン店で、休憩なしで6時間以上働くことが多い。6時間を超えたら休憩をとることができるんだけど、店長はアルバイトのことは考えないで日々の売上額だけを気にしている。勤務した次の日は体がつらいので授業をさぼることが多くなり単位が危ない。でも雇ってもらっているので自分の都合が言いにくい。店長は休憩なしの過酷な勤務をやり遂げることが人間の成長につながると真から思っているみたいだよ。」



洋服販売店でアルバイトしている友人は「勤務時間中はバイト先の洋服を着ることが義務づけられて、その服は自腹で購入しなければならないので毎月かなりの出費。お客さんからのクレーム対応もあり時間内に終わらないとサービス残業。いやになってバイトを辞めたけど、数か月たって最終月のバイト代は振り込まれていない。どうしても欲しいけど、なんだかブラックバイトだな～。どこに相談したらいいのかな。私の我慢が足りなかったのかな。」

わたしたちは施設を巣立ち社会に出ました。みんなに負けるものかと頑張っ、働き勉強もしていますが理不尽なことも多くあります。特に「働く」ことです。上司や同僚とおだやかな関係でいること、クビにならないことが高い優先順位になり自分の将来の夢や生活目標がだんだん遠のいてしまいそうです。我慢して続けることが、周りとの協調することが良い事だと教えられてきましたし。

どうしたらいいだろう、どうしたら心と体が落ち着くだろう。大学生なら学校生活を最優先に考えましょうか。アルバイトも法律上は「労働者」です。労働者としての権利があります。労働者は労働基準法などの法令により守られています。まずは一人で悩まないで、知人・友人や周りの大人に相談しよう。施設の職員さんにお話したらどうでしょうか。きっと良い知恵がでますよ。(久保田)

## 「簡単に稼げる」という言葉に気をつけて！

数年前から、「闇バイト」という言葉をニュースなどで耳にする機会が増えました。SNSなどで「簡単にお金が稼げる」と誘われ、知らないうちに犯罪に巻き込まれてしまうケースもあります。たった1回が地獄の始まりと言っても過言ではありません。個人情報の提出はもちろんのこと、嘘がつけないう、ビデオ通話をつないだまま自宅に入る様子を映すよう命令されることもあります。

「闇バイトは危ないよ。」「絶対にやったらダメだよ。」こういった話は大人からたくさん聞いてきたのではないのでしょうか。「やるわけないじゃん!」みんなそう思っていると思います。でも、やっている人たちも最初はみんなと同じことを思っていました。働けなくなってお金がなくなり、いろいろな思いから誰にも相談できず、住むところも食べ物もなくなった時、あなたならどうしますか？

「困ったら頼ってね。」と言われても“助けて”が上手く伝えられない子を何人も見てきました。それはあなたが悪いわけではないです。“助けて”が言えなかったとしても顔を見せてくれるだけでもいいです。何かサインを出してくれるだけでもいいです。寄り添ってくれる人は必ずいるのでまずは何かアクションを起こしてもらえたらと思います。

「愚か者の身分」という映画があります。この映画は、児童養護施設などで育った若者たちの生きづらさや葛藤を描いた作品です。お金のこと、人とのつながり、将来への不安など、さまざまな悩みを抱えながらも自分の人生を模索していく姿が描かれています。大人からいろんな話を聞くよりもこの映画を観る方が一発で「闇バイトは絶対にやめよう。」となるはずで(笑)フィクションではあるものの、決して遠い世界の話ではなく、今の社会で実際に起きている問題とも重なる部分があると感じさせられる作品です。(村本)

